

18:00~19:00 出演・演出 小野雅子 (オディッシーダンサー)

## Journeying Beyond: Ono Masako's Story

～インド舞踊に魅せられて～

小学生の時、社会科の授業でタージ・マハールの写真を見て以来、小野雅子さんはインドに魅了されていく。東京外国語大学のインド・パキスタン語学科に入学し、幼少からバレエやモダンダンスのレッスンを受けていた小野さんは、インド古典舞踊でもっともポピュラーな「バラタナテウィアム」を習い始めた。ある日、クラスメートから一本のビデオテープを借りた。それが「オディッシー」との出会いだった。首・腰・膝を曲げる「トリ・バンギ/三つの角」と呼ばれる独特な基本形を持ち、手や指先、顔の動きにも大きな特徴があるオディッシーに引き込まれた小野さんは、すぐにインド大使館を訪れ、オディッシーダンスについて問い合わせた。そこでインド南部のバンガロールの学校を紹介され意気揚々と訪ねるが、夏休みで学校は閉校。結局何も学べぬまま帰国する。

大学生活に戻り、インドの学校宛てに「インド舞踊を学びたい」と手紙を送ったが、就職活動のシーズンを迎え、それどころではなくなった。母子家庭の長女の小野さんは、母を助けるために自分が大手企業に入り生活を支えなければと思っていた。NTTから内定通知ももらい、最終面

接を翌日に控えた日、先に手紙を送ったインドの舞踊学校から一通の手紙が届いた。「学費のことは心配しないで、住み込みで勉強しに来なさい」。しかし大手企業への就職を蹴ってまでインドには行けない・・・。そのことを話すと母はこう言った。「自分の人生を決めるのに、人のせいにしてほしくないで。決断できないのは自分が行く勇気がなくて怖いからでしょう。『本当は私はこうしたかったけれど、家族のために諦めた』なんて後で聞きたくないからね」。

母に背中を押されて、小野さんはインドへと旅立った。バンガロールの学校で5年間オディッシーを学び、その後オディッシーの故郷のオリッサ州にスタジオを構え、本格的な活動を始めた。それから17年。小野さんは日本人としては唯一のインド政府公認オディッシーダンサーであり、2008年NEWSWEEK誌「世界が最も尊敬する日本人100人」の一人として、そして2013年AERA「アジアで勝つ日本人100人」の一人として選ばれている。小野雅子の「いま」の表現と活動を、日吉キャンパス来往舎から発信していきます。

19:00~19:30 アフタートーク 石井達朗 (舞踊評論家) × 小野雅子

20:00~21:00 レセプション 来往舎ギャラリー

### ★ 「オディッシー・ビエンナーレ in 日吉」同時開催のお知らせ

2013年11月にオリッサ州で開催された国際芸術祭オディッシー・ビエンナーレの報告展示会を2014年2月6日(木)から8日(土)まで、来往舎ギャラリーで行います。

慶應義塾大学教養研究センター主催

協力：上田彩季、小山奈々子、葛里華、孫恵琳 (宣伝美術)、速水綾香 (照明)、生江有理紗 (音響)



### ...Odissi Dance

紀元前2世紀からの歴史をもち、7つのインド古典舞踊のうちのひとつであるオディッシーダンス。インドの東に位置するオリッサ州で生まれた。他のインド古典舞踊と同様、ヒンドゥー教の寺院内で、巫女たちによって日夜神にささげるために踊られていた踊りが発展したものである。13世紀に建築されたコナーラクの太陽寺院のダンスホールには、踊り子たちの様々なポーズが美しい彫刻として残っている。オディッシーはまるでその彫刻たちが踊りだしたようなダンスなのである。

